

令和6年度 校内研究全体計画

唐津市立鬼塚小学校

1 研究主題

自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成
～ 他教科等とつなぐ道徳科の授業づくりを通して ～

2 主題設定の理由

昨今、子ども達を取り巻く環境が複雑に変化する中、自制心や規範意識、自尊感情の希薄化、他者や地域社会、自然とのかかわりが減少していることが憂慮されている。また、いじめが原因と思われる子ども達の自殺や、情報通信技術の急速な発達に伴う人間関係構築のあり方が社会的な問題となっている。このような社会の中で、子ども達には、他者との相互理解を深め共によりよく生きようとする力や、様々な問題に対して自らの力で対応し解決していく力が求められている。そのために、自らが学ぶ意欲をもち、未来への夢や目標を抱き、自らを律しつつ、自己責任を果たすことができる次代を担う子どもの育成が必要である。このような点から、道徳教育の充実是不可欠なものである。

本校の児童の長所として、「明るく元気がよい、伸び伸びしている」点が挙げられるが、同時に「自分の思いをうまく表現できずコミュニケーションが苦手、自己肯定感が低い」点が課題として挙げられた。そこで、他者との関わりを通して他者を理解し、思いやりの心を育て、自分のよさに気づき自己肯定感を高くもつ児童を育てていきたいと、令和元年度から道徳教育の研究を開始した。これまでの5年間の研究で、児童の道徳科に対する意識が高まり、自分の思いをもち、その思いを積極的に伝え合おうとする児童が増えた。また、思いを伝え合う中で、友達の考えのよいところに気づき、物事を多面的・多角的に考えられる児童も多くなってきた。課題の一つであった「自己肯定感が低い」については、道徳アンケート「自分には、よいところがあると思う」の結果が74.8%から83.3%へと上昇したことから、自分のよさに気づき自信をもてる児童が増えたといえる。

今年度からは、研究主題を「自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成～他教科等とつなぐ道徳科の授業づくりを通して～」と設定し、これまでの成果をもとにより研究を深めていく。道徳科は、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標としている。だが、道徳科だけでは実践態度を育てるところまでは難しいこともある。そこで、他教科等と道徳科をつなぎ単元化することで、「気づき、考え、主体的に行動できる児童」を育てていきたい。主体的に行動できた経験の積み重ねが、自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の姿につながると考える。

3 研究の目標

自己を見つめ、よりよく生きようとする児童を育てるために、「他教科等と道徳科をつなぐ単元づくり」や「児童一人ひとりが自分ごととして問題を捉え、自己の生き方についての考えを深める道徳科授業」の在り方を探る。

4 研究の内容と方法

- (1) 他教科等と道徳科をつなぐ単元づくり（年間カリキュラムの見直し）
- (2) 道徳科の授業の充実
 - ア 児童一人ひとりが自分ごととして問題を捉え、自己の生き方についての考えを深めるような授業づくり
 - イ 主体的に思いを伝え合い、物事を多面的・多角的に捉え、自己の考えを深めていけるような交流活動の充実
 - ウ 授業研究会の実施（全校授業研究会3回、グループ授業研究会3回）
- (3) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の充実
 - ア 行事や総合的な学習の時間における「サッキーカード」の活用・「サッキーファイル（キャリアパスポート）」による積み重ねと振り返り
 - イ 年2回の道徳アンケートの実施（集計、分析、改善策の検討）
 - ウ 環境整備（学級掲示板・全校道徳掲示板・「サッキーの笑顔の木」など）
- (4) 家庭・地域との連携
 - ア ふれあい道徳教育における道徳科の授業公開と保護者からの感想
 - イ 家族でタイム（道徳教材を家族と読んで、話し合う週末の宿題）
 - ウ 家庭からのコメント（「サッキーカード」「桜カード」「ハグハグ大作戦」など）
 - エ 地域との交流・体験活動
 - オ 「道徳だより」の発行

5 期待する研究の成果

教師一人ひとりが「他教科等と道徳科をつなぐ単元づくり」や「児童一人ひとりが自分ごととして問題を捉え、自己の生き方についての考えを深める道徳科授業」を工夫し実施することで、自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の意識を高めることができるであろう。

6 研究組織

